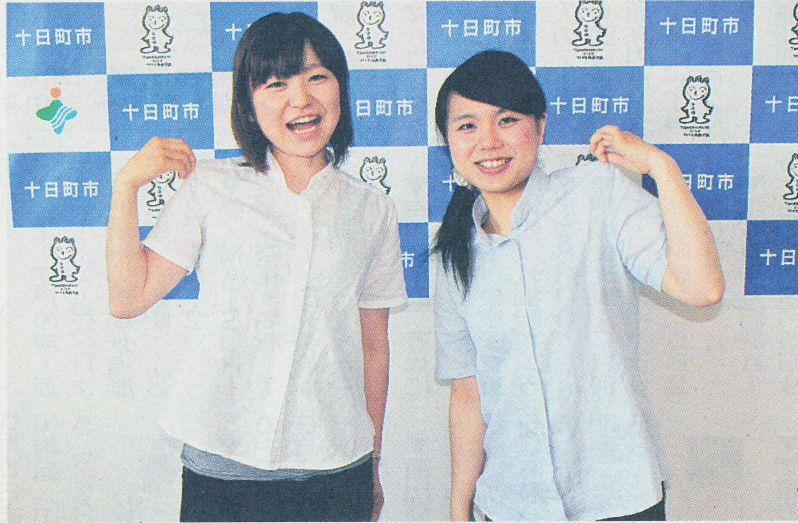


の夢は、
世よ
になるこ
病院に行
やさしく
前に病院
してもら
ように、
り、みん
ことをな
はうのよ
ようにみ
んなが笑
もらいた

025 (752) 2168
ファクス (752) 3965
柏崎支局 0257 (23) 4177
ファクス (23) 4199
小出支局 025 (792) 0416
ファクス (792) 8539

十日町市・独自の節電対策

カラムシシャツ涼しく



十日町市は節電対策のためのクールビズで、市内産の麻の一種「カラムシ」を編み込んだ「からクルシャツ」を推奨することを決めた。上杉謙信の時代から武家に愛用されたカラムシを十日町版クールビズシャツとして普及を図り、7月中旬から職員が着用する。

来月中旬から職員着用

クールビズで十日町市が推奨するカラムシ製の半袖シャツ「からクルシャツ」

市によると、カラムシは謙信・景勝のころには上杉家の貴重な財源となつた。江戸時代の元禄期(17世紀後半ごろ)には幕府の指定を受けて、夏の武家の式服として需要を伸ばしたとされる。糸は1970年代まで、松代地区で盛んに生産されていた。

からクルシャツは、カラムシの商品化に取り組む市内の「ネオ昭和」が製造。横糸にカラムシ、縦糸に綿を使っており、通気性が良く、虫が付きにくく、静電気が起きにくいという。

十日町市に続いて、JA十日町も採用する予定。関口芳史市長は「手軽に購入できるものがあるればと考えていた。息の長い取り組みにしたい」

と期待する。
市民向けには7月5日クロス10で発売する。着3500円。
白、水色、青の3色で1問い合わせは市産業政 3139。
策課、025(757)



ソチ五輪出場への意気込みを語る井川純一選手
手：十日町市下条4

中越地震と中越沖地震で被災した刈羽村で7月8日、復興した村をアピールし、東日本大震災で被災した岩手県を支援するイベント「げんきをつなげよう復活祭」が開かれる。村民らは「阪神大震災の被災地から受けた復興への思いを東北へつなげよう」と準備を進めている。

スキーのクロスカントリ距離で2014年ソチ五輪出場を狙う十日町市下条地区出身の井川純一選手(26)は、岐阜県日野自動車SCIIを支援しようと、地元のスキー関係者が「応援する会」を結成した。下条公民館でこのほど開いた役員会で、井川選手は「あと2年、ソチを目指して頑張りたい」と決意を語った。

井川選手はジュニアチーム「下条JXC」の出身。応援する会は、下条JXCの後援会が母体。役員コーナー、東北物産コーナーなどがある予定。小千谷市や関西圏のほか、昨年支援に訪れた岩手県野田村などから参加者を招く。

武本会長は「被災地同士をつながりを感じられるイベントにしたい」と意気込む。問い合わせは村社会福祉協議会、0257(45)2026。

復興支援つなげたい

刈羽社協 8日にイベント

当日は老人福祉センターを会場に、大きな太巻き作りや長岡市山古志地域のアパカとの触れ合